

第 4 回人権労働・参加協働ワーキンググループ 議事録

- 日時：2018 年 12 月 17 日（月）10:30～12:00
 - 場所：虎ノ門ヒルズ 9 階 Tokyo1, 2 会議室
 - 出席者：黒田かをり座長、石田輝正委員、河合純一委員、土井香苗委員、パトリシア バダー・ジョンストン委員、松中権委員、山崎卓也委員、加藤いずみ委員、林俊宏オブザーバー代理（勝野美江オブザーバー代理）
- ※本議事録では、ワーキンググループを「WG」と記しています。

（冒頭あいさつ及び委員の紹介）

事務局：冒頭あいさつ及び委員変更及びご紹介。

石田委員：ご挨拶

松中委員：ご挨拶

山崎委員：ご挨拶

黒田座長：6月に運営計画第2版が出ましたが、しっかり皆さんにインプット頂きました。これから計画を実施していく重要な段階に入っています。今後の進め方、報告書、取組の進捗状況について、しっかり議論していきたいと思えます。宜しくお願い致します。では、事務局から本日の議事次第について、説明お願い致します。

事務局：本日の資料の確認及び議事次第について説明。

1. 今後の WG の進め方について

事務局：資料に基づき、「今後の WG の進め方について」を説明。

黒田座長：ありがとうございます。この WG は年に数回開催されます。実働的な作業を進めていくためのタスクフォースの設置という説明もありました。具体的には、対応マニュアルの作成を年明けすぐの時期から動き出すというお話でした。ご質問・ご意見等ございましたら、お願い致します。皆さん、賛成という顔をされていますが、メンバーなど具体的なところを事務局からご説明頂けますでしょうか。

事務局：座長からも促していただきましたので、具体的なメンバーは、特にこの分野についてご経験のある山崎委員に関わっていただきたいと考えています。

山崎委員：このマニュアルの果たす役割は重要だと考えていますし、このマニュアルそのものがレガシーになると思います。後世に誇れるようなものを作れたらと思っています。

黒田座長：これから委員を募るということですので、皆さまにもご相談等させて頂くと思えます。その際はどうぞ宜しくお願い致します。皆さまにご賛成頂きましたので、2番に進みたいと

思います。事務局から説明お願い致します。

2. 持続可能性進捗状況報告書(概要版:人権労働・参加協働)について

事務局：資料に基づき、「持続可能性進捗状況報告書（案）の概要」について説明。

黒田座長：ご説明ありがとうございました。人権・労働、公正な事業慣行等への配慮、参加・協働・情報発信について説明がありましたが、どちらも大切な分野であり関係性のある分野です。皆さまご意見等、いかがでしょうか。

パトリスア：今日は本当にありがとうございます。GRI スタンダードを選んだことは、すごくいいアイデアだと思います。GRI は世界中に認められているもので、人間の Behavior (習性) をベースにして作られています。実施しているか、まだできていないか、ということを示すのはよいことだと思います。“Be better, together”というメッセージとも合っています。

黒田座長：ありがとうございます。

河合委員：アクセシビリティについて、1つお聞きしたいと思います。移動については観客も含まれると思います。宿泊の関係も重要ですが、報告書ではどのように扱うのでしょうか。次に、“Be better, together”という言葉は重要なメッセージ性を持つと思いますが、今まで耳にすることが無かったため、今後どのように発信していくのか教えて頂きたいです。

事務局：アクセシビリティは3つの分野に分けているとお伝えしましたが、そのうち施設整備の部分で、宿泊についても触れています。会場整備については、6章で詳しく記載しています。

河合委員：分かりました。

事務局：“Be better, together”については、ご指摘の通り知っていただくことが重要ですが、プレスリリースなど外に発信するときには必ずこのメッセージとイラストをつけるようにしています。今後も、持続可能性の取組を発信する時には、Be better, together に繋がっていることをしっかりと示していきたいと思います。

河合委員：その言葉を使ったライセンス商品などは考えていますか。

事務局：今のところライセンス商品は検討していませんが、どのようなものにメッセージを載せていくかということを検討しているところです。

黒田座長：河合委員、よろしいでしょうか。

河合委員：はい。

黒田座長：では、土井委員お願い致します。

土井委員：ありがとうございます。計画から半年で中身が厚くなっており、事務局の皆さまに敬意を表したいと思います。

書きぶりについては、英語になった時、国際的な関心に応えていると分かる言葉を使用して頂きたいと思います。D&Iは非常に大事ですが、“差別を許さない”という事の裏返しなので、“この大会は差別を許さない”ということを前面に出して頂きたいと思います。実際には、差別を許さないという事を前提にD&Iを検討されていると思いますが、差別がはびこっている現状が世界やスポーツ大会にはあるため、東京2020は差別を許さないということが前提にあるときちんと示すことが大事だと思います。

また、報道、集会・表現の自由について盛り込むことは国際的な観点で重要なことで、記載して頂き大変有難いと思います。外国では、civil society（市民社会）やright activists（人権活動家）に対する攻撃がメガスポーツに関連して行われることが多いので、civil society（市民社会）やright activists（人権活動家）をキーワードとして入れた頂いた方がいいと思います。

以前もお話したことがありましたが、Forced eviction（強制的な退去）は、会場を作る時に起こりうることです。適切な手続き（due process）や補償（compensation）がないままに行われると、問題になってきます。日本においては重大な問題になっていないため記載していないのだと思いますが、課題も含め、問題があれば短くても率直に書いて頂きたいと思います。

労働への適切な配慮の実践については、労働権の保障という率直な書き方も加えて頂きたいと思います。世界のメガスポーツイベントで、マイグランドワーカー（migrant worker 外国人労働者）の人権侵害が重大な問題として指摘されています。調達コードにも盛り込まれているので、“マイグランドワーカー”についても触れて頂きたいと思います。

資料に記載のある「人権相談窓口」は、新たに設置されたものなのでしょうか。そうであればとても良いことだと思います。国連の指導原則に則ると宣言されているので、可能な限り救済のために対応する必要があります。外部の間接・直接を問わない人権関係の受付窓口が、この“外部”というところに含まれるのでしょうか。

事務局：国際的な議論を踏まえたキーワードなどを明示して頂きました。いかなる差別も許さないことを大前提に人権の指導原則に基づくことについて、包括的には、4.4章の概要の前書きで触れています。土井委員からの3つのキーワードについて、どのように反映できるか検討していきます。

ここにある外部というのは、職員向けのものです。一方、一般の方に対しては、代表電話等の窓口が既に設置されており、実際に問合せをいただいています。

土井委員：出来ることならば、代表電話ではなく、ここにかければいいと、示せたらいいと思います。代表電話ではたらい回しにされるのではないかと躊躇することもあるため、アクセス

しやすい窓口の設置をご検討いただきたい。

黒田座長：他の委員の方、いかがでしょうか。

石田委員：この報告書の位置づけがあくまでも進捗状況ということで、大会前に大会前報告書が出されることを考えると、綺麗にまとまり過ぎているように思います。今までにできたもの、進行中のもの、今後やらなければならないものが分かるように構成されている方が、読む人にとって分かりやすいと思います。この時期にこういう状態だったが、大会前にはこう変化したという事が分かるようにすると将来のレガシーになると思います。構成を変えることは難しいかと思うので、読んで分かるようにご検討頂けたらと思います。

事務局：いかにストーリー性を持って作っていくのが難しいと思いながら、作成しています。全体構成をこれから変更していくことは難しいのですが、本文において良い事だけにしないよう、課題として何が残っていて、今後どのように取り組んでいくのかが分かるように示していきます。

松中委員：素晴らしい取組なので、実施していることを知って貰えるよう、広めていくことが重要だと思います。メディアの方々との情報交換など計画されているのでしょうか。また、メディア向けに、差別的な表現をされることを予防するためのメディアガイドラインを作る大きな大会等もあると思いますが、計画されているのでしょうか。さらに、組織委員会だけでなく、パートナー企業と一緒に発信していく取組は予定されているのでしょうか。

事務局：おっしゃる通りで、メディアは発信力を持っており、取組をメディアに取り上げて貰い、広めていただくことが重要です。これまでも計画等を発表した際には、メディアの方に資料を渡すだけでなく、実際に内容を説明し、それに対して質問を受けることで取組を理解していただくということも行っています。今後も、メディアとのコミュニケーションをしていきたいと考えています。

事務局：補足ですが、パートナーによる発信も重要なところで、持続可能性のスポンサーネットワークなどの場も活用しています。

パトリア委員：エンゲージメントの件ですが、Tokyo English Life Line(TELL)という30年以上の歴史を持つ、外国のNPOがあります。ハラスメントなどの個人的な問題への対応をしているところですが、東京大会においてもそのようなサービスがあると良いと言っていました。タスクフォースで話されることかもしれませんが、TELLが良いリソースになると思う。

土井委員：国連の指導原則に則ると宣言されていて、それは世界的にも評価されていることだと思います。報告書もよく練られたものだと思います。人権の負の影響を解決する、Mitigate（軽

減する)する、ということに加えて(国連の指導原則では)具体的要求はされていませんが、負の影響を最小限にするだけでなく、オリンピック・パラリンピックを通じて良いものを生み出せるよう、必要以上の事が出来る余地があれば良いと思います。例えば、差別や人権侵害をおこさないことは、人権分野の重要なことです。マニュアル作成等絶対にやらなければならないこと以外に、大会に直接関係なくても、社会にレガシーを残すためのプラスの取組も行われるといいと思います。

事務局：ありがとうございます。検討して参ります。

黒田座長：報告書は全体で百何十ページになると思います。企業だと関係者が対象になると思いますが、東京2020大会の持続可能性報告書は、国際社会における、専門家から一般の方まで、広く誰が手にとっても良いもの(多くの方に手に取ってもらいたいもの)です。分かりやすくメッセージが伝わるといいと思います。

土井委員のキーワードは大変重要だと思いますし、強制退去や建設現場での問題等、東京大会でのネガティブな事もきちんと書き、それに対してどのように対応がなされたのかも書かれるといいのではないのでしょうか。また、発信の課題に対しては、メディア勉強会を開催し、持続可能性について一緒に話す機会を考えてもいいのではと思いました。より良いものを生み出す、こういった大会を通して何を目指すのかを示すため、この報告書からきちんと書いていった方が良いのではないかと思います。

事務局：ネガティブな事も書くことは、きちんとやっていきたいと考えています。例えば、建設現場での事故の事についても触れられるよう努めます。これもキーワードとなりますが、(ラギーさんが「指導原則」で根底に置かれた考え方である) principled pragmatism (信念を持った実益主義)を大事にしたいと思います。

事務局：それぞれのネットワークをお持ちの委員の皆さまに、発信にご協力頂きたいと思っています。一緒に、“together”で取り組んでいきたいと思っています。

黒田座長：委員としても発信に努めていきたいと思っています。ありがとうございます。

3. 主な取り組みの進捗状況(人権労働・参加協働)について

事務局：資料に基づき、「主な取り組みの進捗状況」について、説明。

黒田座長：ありがとうございました。プライド指標のシルバーおめでとうございます。松中さんから何かあればお願い致します。

松中委員：調達コードについては、厳正な審査において、高く評価されています。サプライヤーやその先の人々にも影響を及ぼすということに取り組むのは、企業においては難しいことで

注目されています。企業に先駆けて取り組まれたことは本当に素晴らしいことだと思います。来年度は評価が厳しくなるのではという話がありましたが、高いハードルを設けることはなく、来年度は横連携、他の企業と手を組むなど、是非他の企業と連携を組むことなどがあれば良いと思います。これからもっと広がっていったらいいと思います。

土井委員：どの取組も素晴らしいと拝聴しました。国連との SDGs の署名は、組織委員会どちらの部署で推進されているのでしょうか。また、例えば、「両者は、大会の機運醸成、SDGs の達成におけるスポーツの役割に対する関心の向上、SDGs に貢献する スポーツ活動の促進、SDGs やスポーツとの関連性に対する理解促進のために連携する。」とありますが、検討されている具体的な取組があれば、ご紹介して頂けますか。

事務局：企画財務局の A&L 部が所管部署ではありますが、私達（SUS 部）も協力して進めています。具体的にどのように行っていくかは、これから詰めていくところですが、大会期間中のメディア・ゾーンの創設に協力し、そこで我々の発信を国連に取り上げて頂くことなどを考えています。

河合委員：色々な取組がなされていることを理解しました。D&I 宣言は、職員だけなのでしょうか。競技団体にも広げていくことで、スポーツ界全体で取り組むことができます。アスリート委員会も連携して、コミットしていけたらと思います。

事務局：職員だけで考えていましたが、お話を伺い、広げていけたらいいと思いました。人事部の中でも検討していきます。

林代理：メディア・ゾーンの国連での発信について、政府で年内に SDGs の推進本部会議も行い、政府の取組を取りまとめています。組織委員会とのつなぎは、内閣官房が行っているので、国連との発信があるようであれば、政府と連携して頂けたらと思います。

事務局：政府全般ということでの働きかけはしていませんが、取組ごとに各省庁とは個別に連携させて頂いています。SDGs を強調して、積極的に連携して取り組んでいきたいと思っています。

松中委員：河合委員のお話を聞き、D&I 宣言に関して、アスリート等が宣言できるプログラムがあれば素晴らしいと思いました。このような取り組みを行う中で、NGO とアスリートをつなぐプロジェクトがあったらいいと思います。

パトリア委員：ロンドンオリンピックの D&I 代表から、D&I の pledge の取組の話があった（東京側にも紹介した）が、それはどうなりましたか。D&I のプレッジにサインすればいいかなと思うが…。ロンドン大会でそのような取組があり、インパクトがありました。

事務局：ロンドン大会での話を伺い、それをもとに D&I 宣言を行いました。先日、局長以上にはサインして頂きました。職員にはボードに名前を書いて貰い、サインした人たちにはステッカーを配布するというようにしています。

パトリシア：それはメディアには？

事務局：はい、メディアに公開しています。日テレのネット上のニュースで取り上げて頂きました。

林代理：人権・参加協働の取組が進んでいますが、会場における人権に関するタスクフォースについて、報告書に記載されていくという理解で宜しいでしょうか。

事務局：3月の進捗報告書には難しいと思いますが、大会前に出る報告書には記載していきたいと考えています。

黒田座長：最後の議事として、今後の予定について事務局から宜しくお願い致します。

4. その他

事務局：来週の DG で進捗報告書全体の議論をして頂きます。来年3月頃に街づくり・持続可能性委員会に諮り、今年度末に公表する予定になっています。タスクフォースは1月～3月に検討を行い、WGにてその内容について報告していきます。

黒田座長：タスクフォースは、山崎委員が中心になって参画するが、他の委員の皆さまも参加することが可能なのでしょうか。

事務局：はい、歓迎いたします。

黒田座長：引き続き、この WG も宜しくお願い致します。